

# いけばな × 花器

— 町田市立博物館所蔵品より —





## 町田市立博物館の 工芸美術



《灰釉兔形壺/黒褐釉兔形壺》  
タイ東北部 クメール王国 12~13世紀

町田市立博物館の工芸コレクションは、陶磁器とガラスが中心です。

陶磁器は東南アジアの様々なバリエーションの作品を所蔵しており、その数は約1400点！

ほかにも、中国や日本の作品があり、アジアの陶磁器の歴史を見渡すことができます。

ガラスは、チェコのボヘミア地方や、中国の作品を多く収蔵しています。また、最近では、近現代の日本で作られたガラス作品のコレクションにも力を入れています。

## いけばな×花器

この企画は、「博物館の所蔵品に花を生けてみたら、これまでにない新たな魅力が感じられるのではないか」という素朴な思い付きからスタートしました。3000点を超える所蔵作品の中から学芸員が選んだ8点の作品には、花器として作られた作品に加え、全く別の用途の作品も含まれています。例えば、霊鳥の形をしたタイの青磁は水を注ぐためのものであり、窯から出てから500年間、一度も花を生けられたことはなかったでしょう。花と作品、二度と同じ組み合わせはない特別なコラボレーションを、ぜひお楽しみください。



中川幸夫 (1918~2012)  
《花器「クーホア」》 制作年不明

## 町田華道協会



町田華道協会の活動の様子

町田華道協会は、町田市を中心に活動する華道家の集まりです。

1954年に町田いけばな同好会として発足し、2023年で創立70周年を迎え、現在は会員約50名で活動しています。

「博物館の作品を用いた、さまざまなロケーションでのいけばな」という今回の企画では、会員の皆様から流派を問わずご参加いただきました。

悠々と天につづく地上の実り



草月流  
福島麗草

花材：イイギリ、フウセンカズラ、アケビ、オンシジウム  
器のふっくらとした形と茶・白の色合いにイイギリを合わせ、クメール文化の素朴な自然をイメージしました。

《灰・褐釉櫛目文水注》  
タイ東北部 クメール王国  
11~12世紀



## 奏であう 器とよろこび



《緑釉盤》 ミャンマー 15〜16世紀

### 龍生派 飯田青葩

花材：エケベリア、ヒガンバナ(赤・白)、  
アジサイ、フウセンカズラ

器の色と形から連想して、花材のエケベリアを選びました。エケベリアの緑と器の緑を合わせて、器と空間が一体となるように全体を構成し、アクセントとして赤・白のヒガンバナを添えています。

### 未生流中山文甫会 笹野朱里甫

花材：アサヒハラン、コスモス  
岩田久利のガラスの質感に、植物のハランを取り合わせました。家屋の中で格式が高い床の間に飾る花型「格花」でいけることが、作品に対する最大の敬意だと考えました。

岩田久利(1925~1994)  
《花器》1987年



花は花 花器も花  
いける姿も花 花になりたい

《青花花鳥文広口壺》 ベトナム 15〜16世紀



### 池坊 佐伯宗華

花材：スカシユリ、タケ、キキョウラン

器に描かれたモチーフから竹を連想し、構成の中心に据えました。池坊いけばなの伝統的な生け方である「生花三種生け」を採用しています。

青花の雀 青竹に遊ぶ





智慧と祈りを乗せたタイの造形

〈青磁壺鳥形水注〉タイ シーサッチャナーライ窯 15世紀

草月流  
木村緑星

花材：フウセントウワタ、シンビジウム、キイチゴ、ワレモコウ  
鳥形の器から卵と豊穡への祈りを連想し、卵に見立てたフウセントウワタを合わせました。ヒンドゥー教の神ブラフマーを乗せる神鳥ハムサを象った作品なので、神聖なイメージで生けました。



花器

草照流  
吉田晃照

花材：アンズリウム、バラ、  
ベンケイソウ、ミスカンサス

艶やかな赤いガラスの器から伸びる  
優美な曲線を活かし、秋風を感じら  
れるように軽やかに仕上げてみまし  
た。オレンジのバラは、赤色ガラス  
の呈色剤に用いる金をイメージして  
います。

岩田藤七(1893~1980)  
《花器》1962年



曲線をゆく秋の風



海底を鮮やかに生きる  
花とガラス

草照流  
寺澤京照

花材：キングプロテア、パピルス、  
多肉植物、トウガラシ、  
パンパスグラス、  
ミニパンパスグラス

花器の色が深い海のように見え  
たので、海底のサンゴ礁とそこ  
に棲むイソギンチャク、熱帯魚  
を表現しました。

中川幸夫(1918~2012)  
《花器「クーホア」》制作年不明

本冊子は、2023年12月12日～24日に町田市立中央図書館で開催する  
写真パネル展「いけばな×花器—町田市立博物館所蔵品より—」に合わせて作成しました。

## 表紙の紹介

### いにしへの器と今秋に吹く風

いけのぼう おがわりょうか  
池坊 小川陵華

花材：ツルウメモドキ、ブラックリーフ、ツルバギア、パニカム、シペラス、パピルス、ヘリコニア、  
オキシカルジウム、クロトン、メリー、セダム、リンドウ、アカナス、セキショウ、ネズミモチ、  
センリョウ、エリンジウム、シュスラン、カーネーション、キキョウラン

器の色合いを意識して花材を選び、秋風に柔らかくなびくようなイメージで生けています。  
中国の古い作品なので、その風合いを崩さないように心掛けました。

(表紙)《白釉鉄彩牡丹唐草文瓶》 中国・遼 赤峰缸瓦窯 11～12世紀

## 町田市立博物館のコレクションは、 (仮称)町田市立国際工芸美術館に引き継がれます！

町田市立博物館は、老朽化のため2019年6月をもって館内での活動を終了し、  
現在は市内各所で出張展示や体験講座などを実施しています。

町田市では現在、「パークミュージアム」というコンセプトにて町田駅近くの  
芹ヶ谷公園の再整備を進めており、新たに(仮称)町田市立国際工芸美術館の  
建設を予定しています。豊かな自然に恵まれた公園内で、陶磁器とガラスの  
コレクションをご覧いただくことができるようになります。

## 「いけばな×花器 —町田市立博物館所蔵品より—

発行日 2023年12月12日

編集 飯岡遼、高橋奈

撮影 小平忠生

印刷 ニューカラー写真印刷株式会社

発行 町田市立博物館

〒194-0032 東京都町田市本町田3562番地

町田市立博物館©2023

本冊子の一部もしくは全部を、許可なく複写、複製、転写することを禁じます。  
この冊子は4800部作成し、1部あたり単価は75円です。

博物館のホームページや公式SNSでは、  
体験講座や展覧会などのイベント情報を発信中！  
ぜひ、チェックしてください！

公式X(旧Twitter)：@machida\_museum

公式Instagram：@machida\_museum

Instagram始めました!!

博物館公式X  
QRコード

